

第2章 健康を取巻く現状

1 大田区の健康を取巻く現状

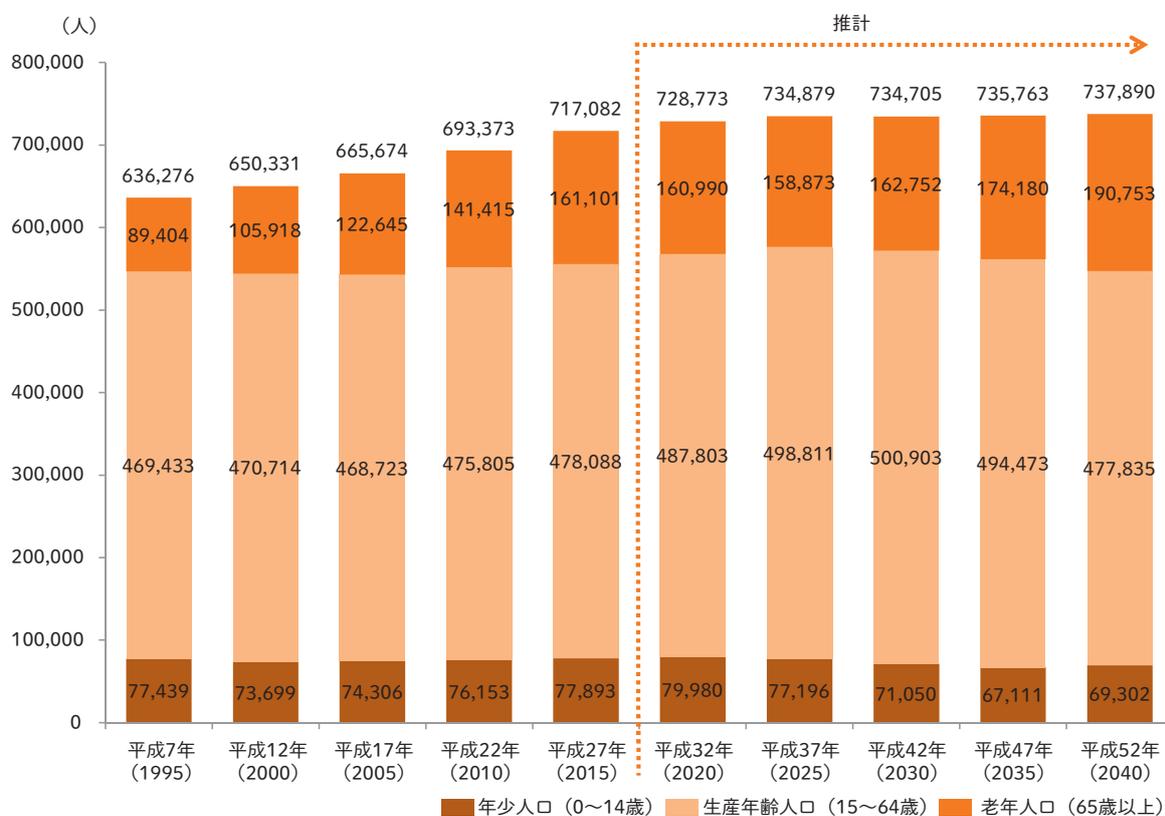
1 人口推移と世帯数

(1) 総人口および年齢（3区分）別人口の推移と推計

大田区の人口は、平成7年の63.6万人から、平成27年には71.7万人へ増加しています。この間、年齢（3区分）別人口の構成比について、年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）の割合は横ばいの一方、老年人口（65歳以上）の割合は増加しています。

平成32（2020）年以降、平成52（2040）年にかけて、年少人口は横ばいから減少、生産年齢人口は増加から減少、老年人口は横ばいから増加する見込みです。

■図表2-1 総人口及び年齢（3区分）別人口の推移と推計



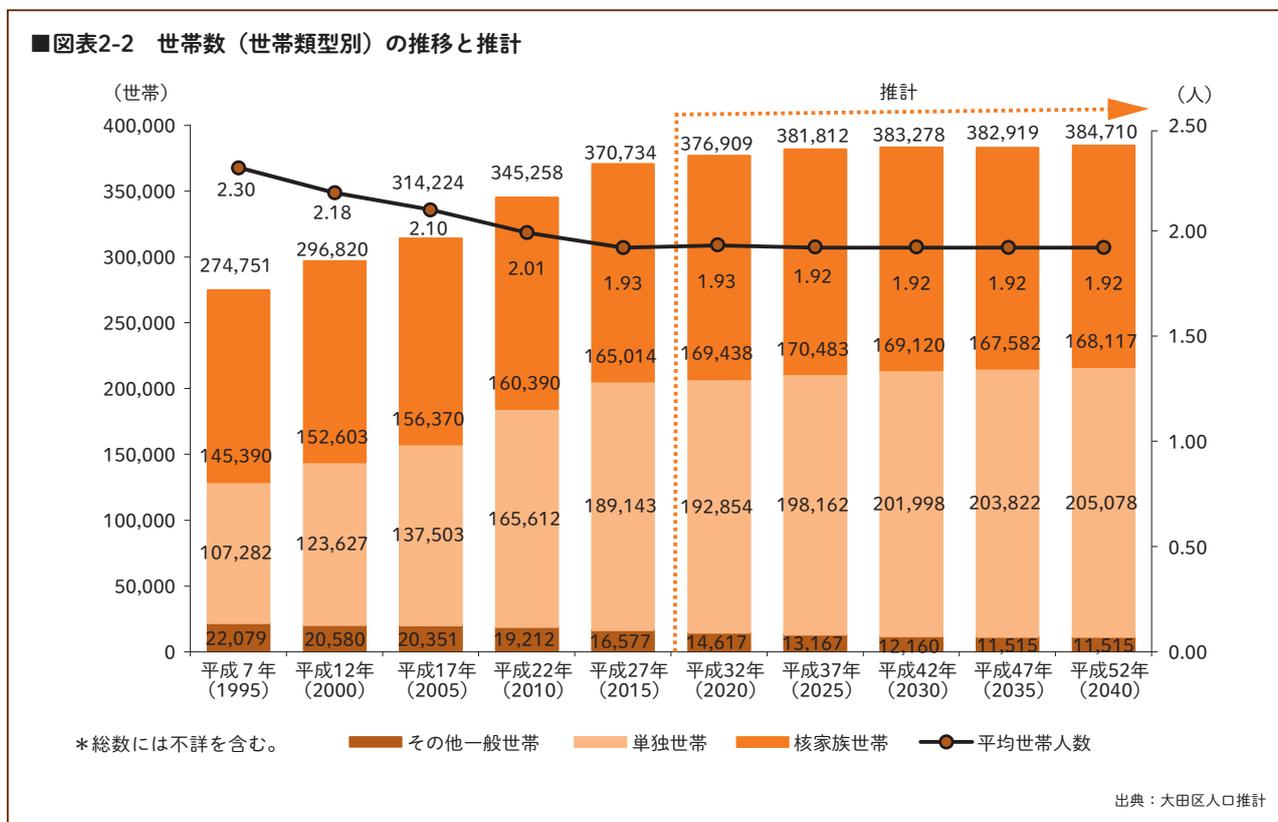
1) 平成27年以前は、年齢不詳者を3区分に按分した人口。

2) 平成32年以降は、小数点第1位を四捨五入した値を表示しているため、総人口が内訳の合計と一致しない場合がある。

出典：国勢調査（平成27年まで）、大田区人口推計（平成32年以降）

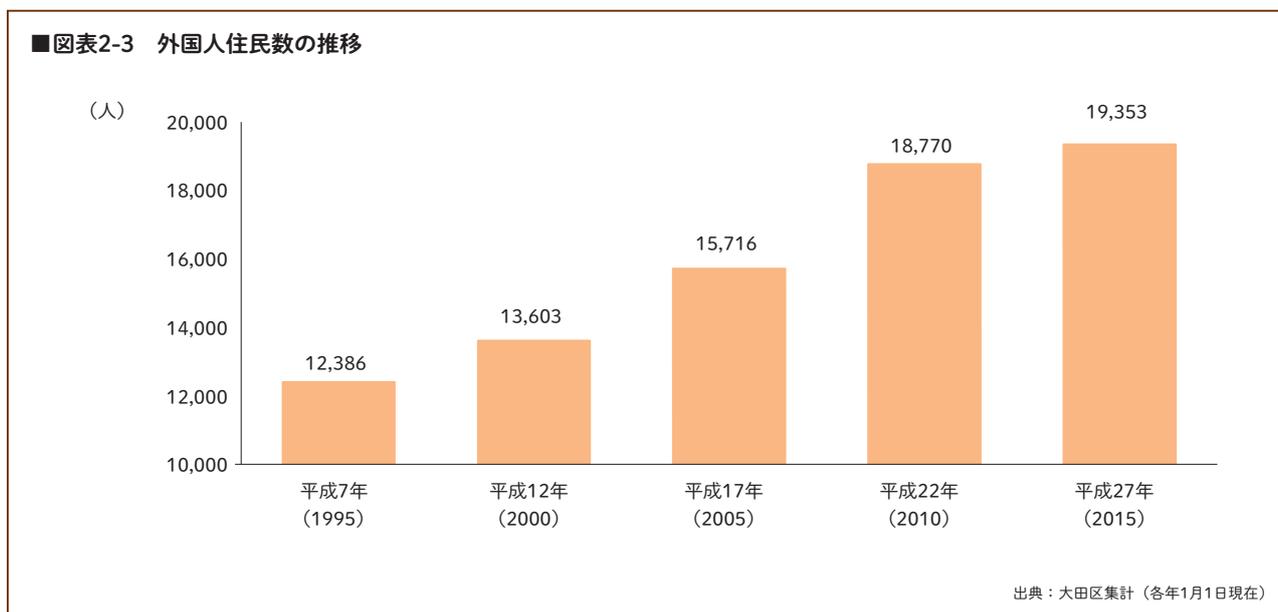
(2) 世帯数（世帯類型別）の推移と推計

単独世帯が増加し、平成27年には過半数を超えています。また、単独世帯の増加に伴い、世帯数は増加し、平成7年から平成27年にかけて、1世帯当たりの平均人数は減少しています。平成32（2020）年以降は横ばいの傾向が続く見込みです。



(3) 外国人住民数の推移

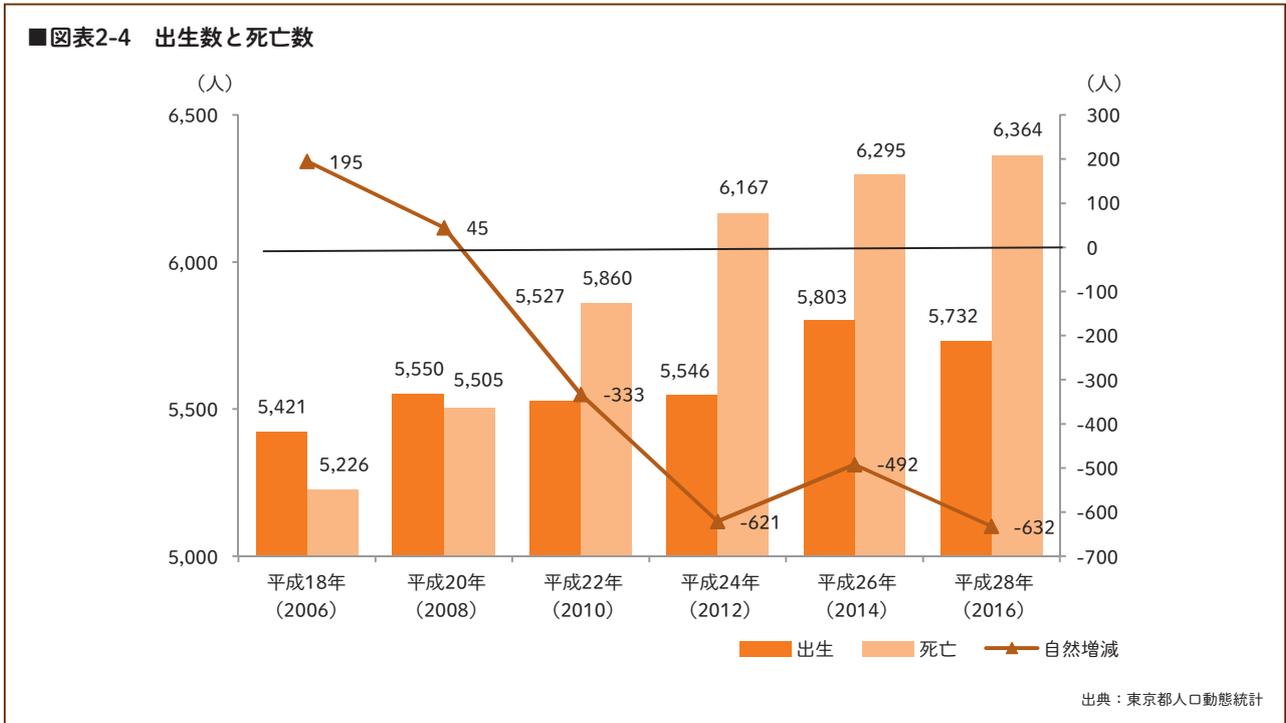
区内在住の外国人数（平成25年7月9日までは、外国人登録者数、それ以降は住民基本台帳に登録されている外国人数）は、平成7年の12,386人から平成27年には、19,353人へ増加しています。



2 人口動態

(1) 出生数と死亡数

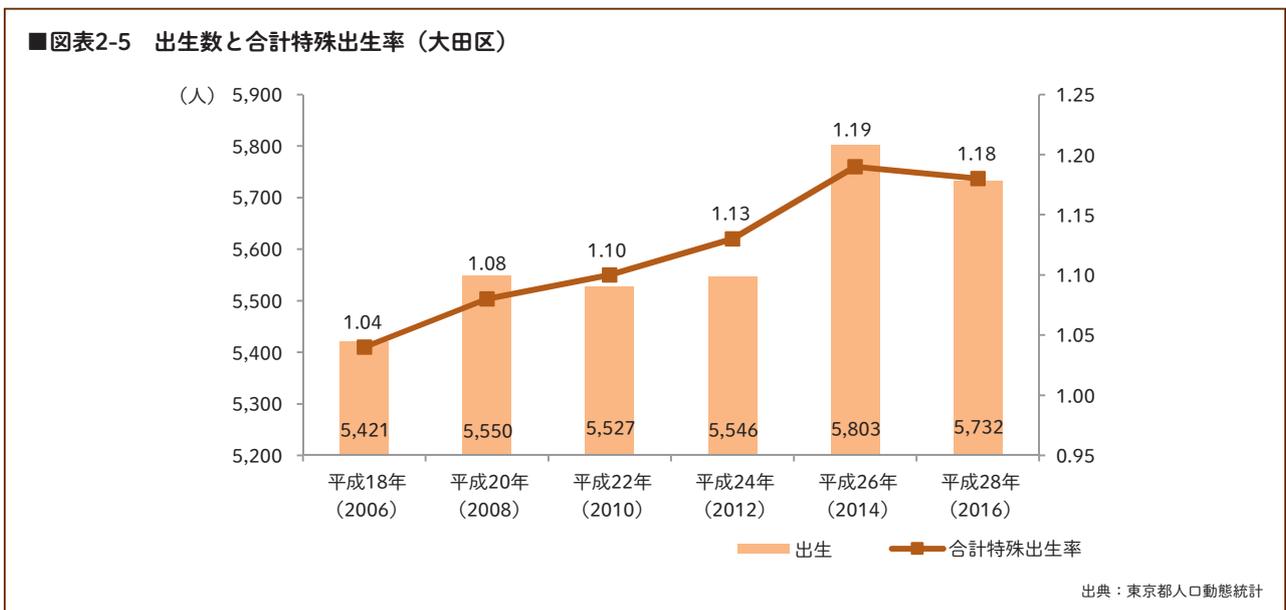
平成22年以降、死亡数が出生数を上回っています。平成28年の出生数と死亡数の差は632人となっています。



(2) 合計特殊出生率

合計特殊出生率は、15歳から49歳の女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が生涯に生むと推定される子どもの数を表します。

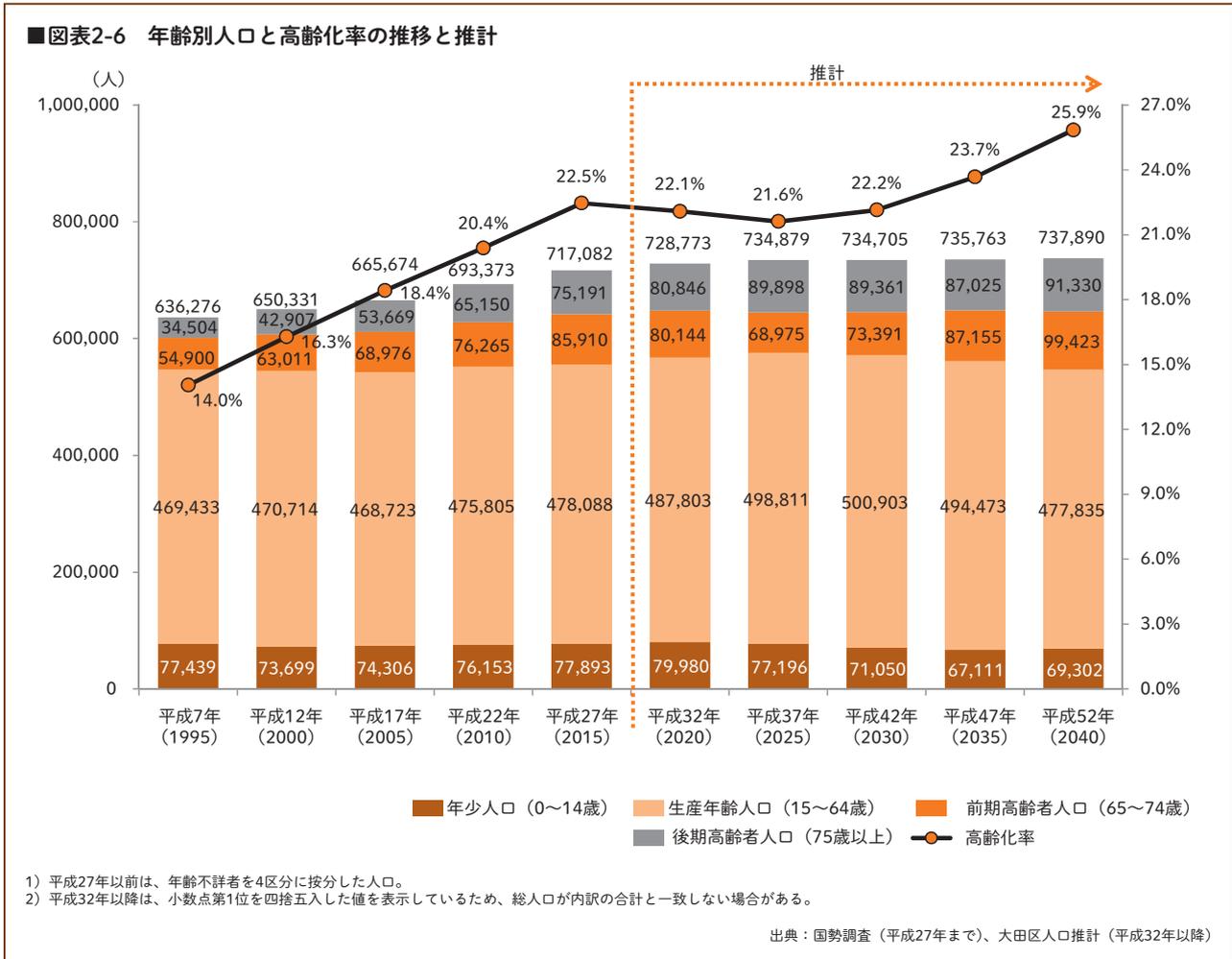
区の合計特殊出生率は、平成18年の1.04人から平成28年の1.18人へ増えています。



3 区内高齢者の現状

(1) 区の高齢化率

区の高齢化率（65歳以上人口）は平成7年の14.0%から、平成27年には22.5%となり、平成32（2020）年以降、平成52（2040）年にかけてやや減少した後、25.9%まで増加する見込みです。これは、超高齢者社会と言われる21%を超えています。



■参考

全国・東京都の高齢化率

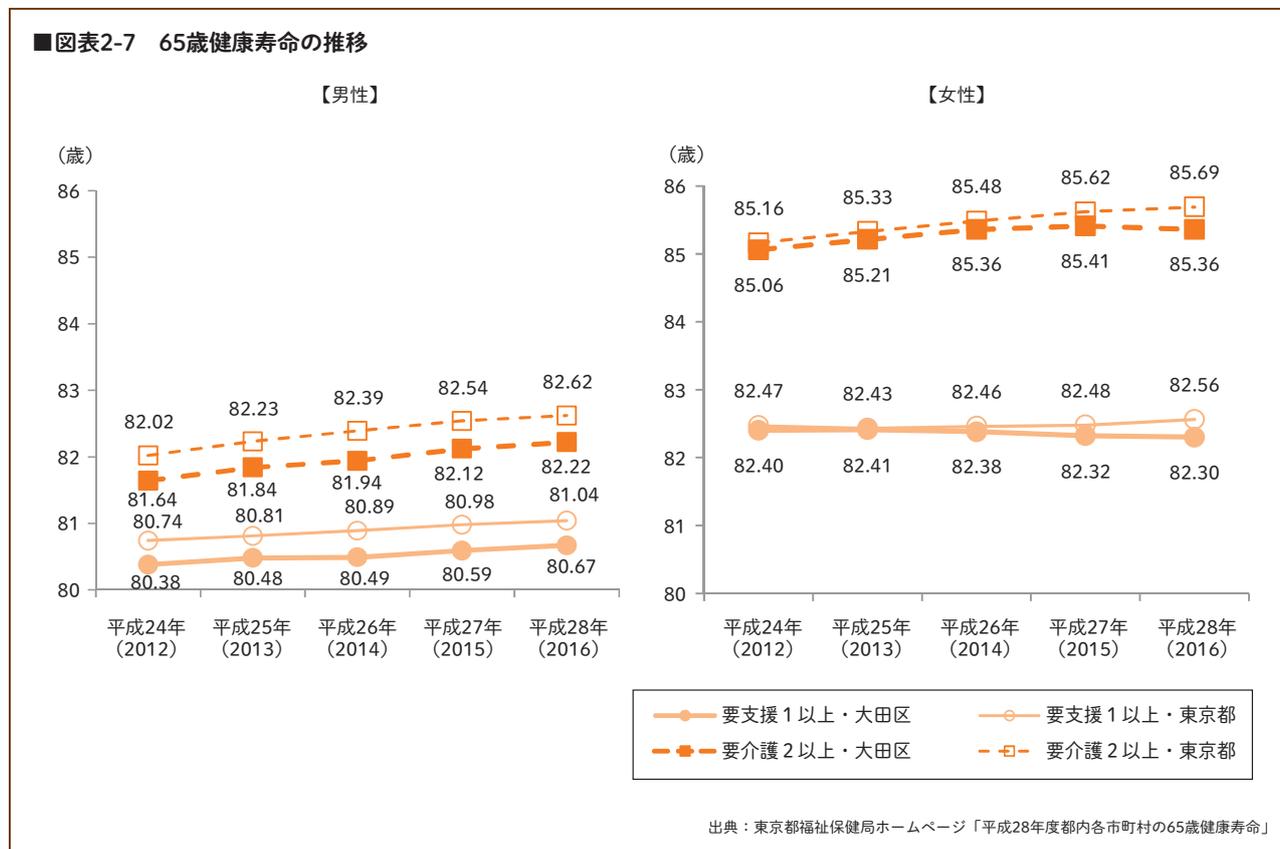
	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	平成32年 (2020年)	平成37年 (2025年)	平成42年 (2030年)	平成47年 (2035年)	平成52年 (2040年)
東京都	13.0	15.9	18.5	20.4	22.7	23.2	23.3	24.3	26.4	29.3
全国	14.6	17.5	19.6	22.0	25.2	28.9	30.0	31.2	32.8	35.3

出典：国勢調査（平成27年まで）
 東京都政策企画局 東京都長期ビジョン（平成32（2020）年以降）
 平成30年版高齢社会白書（平成32（2020）年以降）

(2) 65歳健康寿命（東京保健所長会方式）

65歳健康寿命とは、65歳の人が何らかの障がいのために日常生活動作が制限されるまでの年齢を平均的に表したものです。

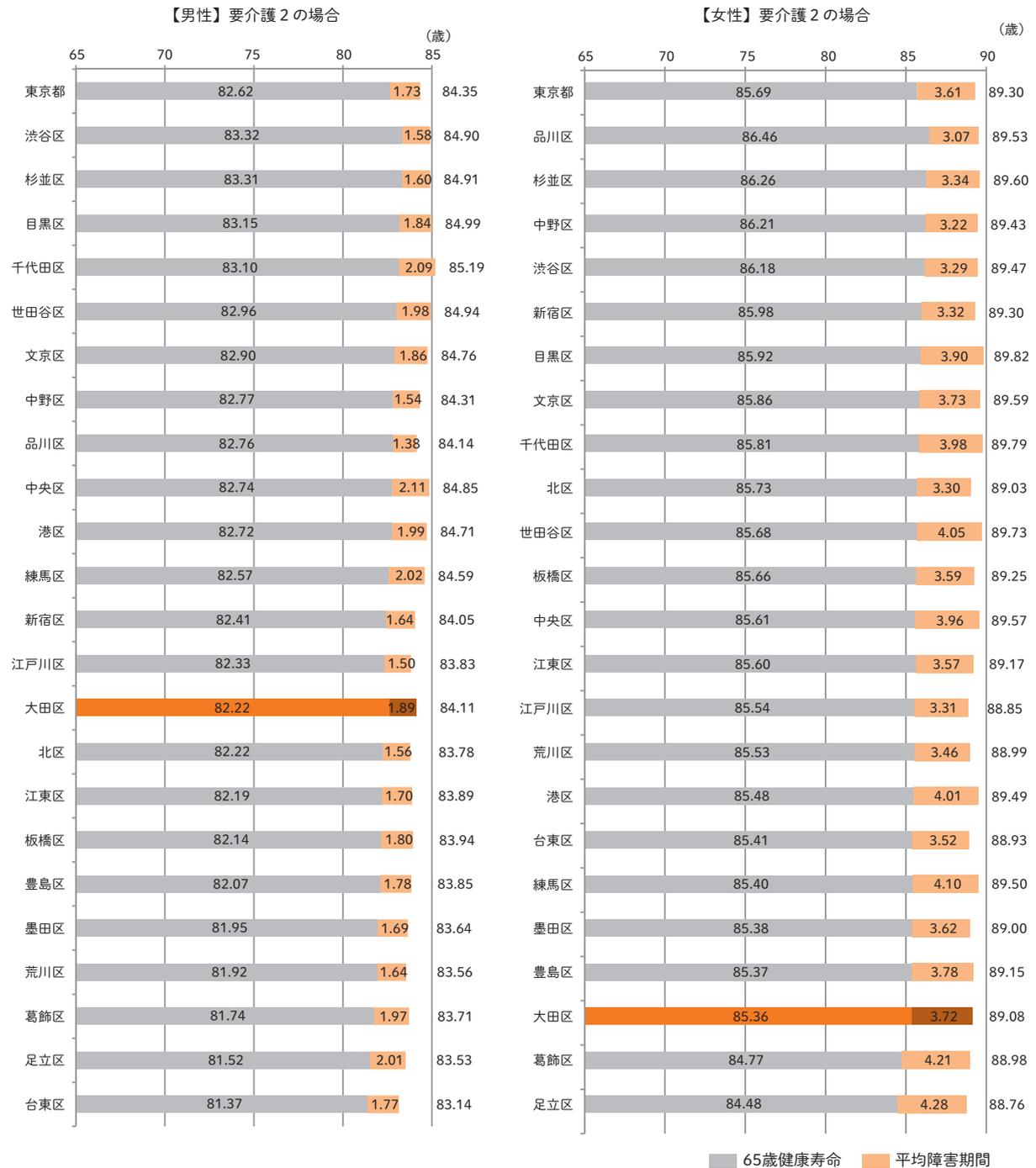
障がい期間を要支援1以上とした場合も要介護2以上とした場合も、男女とも東京都の平均をやや下回り、その差は男性の方が大きくなっています。



要介護2の場合でみると、平成28年の男性の65歳健康寿命は82.22歳、要介護2の認定を受けてから亡くなるまでの期間（平均障がい期間）は1.89年です。健康寿命は、23区中14番目です。

女性の65歳健康寿命は85.36歳、平均障がい期間は3.72年で、健康寿命は23区中21番目です。

■図表2-8 65歳健康寿命の比較



出典：東京都福祉保健局ホームページ「平成28年度都内各市町村の65歳健康寿命」

4 主要死因

(1) 主要死因別死亡率

大田区の死因の第1位はがん（悪性新生物）で全死因の約3分の1を占めます。次いで心疾患、肺炎が続きます。大田区平均は東京都平均と比べて、がん、脳血管疾患、肺炎、慢性閉塞性肺疾患、肝疾患、腎不全、不慮の事故の死亡率が高くなっています。

■図表2-9 主要死因死亡率（平成25～29年の平均）

地域	計	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	慢性閉塞性肺疾患	肝疾患	腎不全	老衰	不慮の事故	自殺
国	1035.0	295.4	158.5	90.0	92.6	13.2	12.8	19.9	67.8	31.2	18.4
都	857.8	257.1	129.9	69.9	72.9	10.6	13.5	14.1	54.2	20.5	17.3
区	875.8	268.7	128.7	72.3	74.5	10.8	15.0	15.8	50.8	21.4	15.6

(1) 人口10万対粗死亡率
(2) 都より死亡率が高いものに網掛け

出典：区「保健衛生事業資料集」
都「東京都人口動態調査」
国「厚生労働省人口動態調査」

(2) がん（悪性新生物）の部位別死亡率

がんの部位別死亡率の平均を見ると、都平均に比べ、大腸、肺（気管、気管支及び肺）、乳房、子宮が高くなっています。

■図表2-10 悪性新生物 部位別死亡率・数（平成25～29年の平均）

地域	悪性新生物	再掲					
		胃	大腸	肝臓	気管、気管支及び肺	乳房	子宮
国	295.4	37.4	39.4	23.1	58.9	11.0	9.9
都	257.1	31.0	35.4	17.7	49.9	11.5	9.3
区	268.7	30.8	38.5	17.7	54.3	11.9	9.9

(1) 人口10万対粗死亡率
(2) 都より死亡率が高いものに網掛け

出典：区「保健衛生事業資料集」
都「東京都人口動態調査」
国「厚生労働省人口動態調査」

